

トウキョウサンショウウオの産卵が始まりました！

今年も谷戸沢処分場に、トウキョウサンショウウオの産卵シーズンがやってきました。循環組合では、毎年この時期にトウキョウサンショウウオの産卵調査を行っています。今年も処分場管理区域でたくさんの「卵のう」が確認されています。



ほぼ実物大

トウキョウサンショウウオの「卵のう」

トウキョウサンショウウオのメスは、1対（2個）の「卵のう」を産みます。「卵のう」の「のう」は漢字で「囊」と書き、「袋」という意味です。この袋の中に卵がいくつ入っているのか、数えてみてください。



産卵地のようす

現在までの調査で、350個ほどの卵のうが見つかっています。
産卵は4月末まで続きます。

「トウキョウサンショウウオ」って？

有尾類（しっぽのある「両生類」の仲間）で、関東地方を中心に分布しています。「両生類」が生きるためには、水中と陸上「両方」の環境が必要です。卵から生まれてしばらくは水中で生活し、8月ごろに陸へ移動します。やがて繁殖期を迎えると水辺に戻ってきて水中に産卵します。水田など産卵に適した場所が減ったため、トウキョウサンショウウオの数が減っています。日の出町の天然記念物に指定されています。



トウキョウサンショウウオのオス（左）とメス（右）



ちょっと谷戸沢

第2号
2013年5月

春の妖精 スプリングエフェメラル(spring ephemeral)!

森の木々が芽吹く前の一時、林床に差し込んだ春の陽光を浴びシュンランやフデリンドウなどの花がひっそりと咲きます。そんな花たちをスプリングエフェメラル=春の妖精と呼びます。

やがて森の上空を覆うコナラなどの葉が展開すると、シュンランなどは来春まで休眠します。



カタクリ

カタクリは、神社跡に残された階段脇斜面に生育するサクラの下で咲きます。

カタクリ粉の名前のおり、デンプン質の多い球根や葉は、山菜として利用されてきました。現在の片栗粉は、サツマイモなどのデンプンから作られています。

同時期におなじような紫色のタチツボスミレも咲いています。



フデリンドウ

神社跡の北西側では、フデリンドウも清楚な花を咲かせています。フデリンドウの花は、太陽の日差しが届いている間だけ開花しています。

フデリンドウも生育数が増加しています。

「絶滅危惧種のエビネ」

エビネは、根の形がエビの尾のような形状であることからその名がついたと言われています。

ランの仲間は、綺麗な花を咲かせる種類が多く園芸品種も多数作られていますが、なかでもエビネは、花が綺麗であることから採集されてしまうことが多く、現在では環境省のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されています。谷戸沢では、北側樹林内に生育しています。



エビネ



ちょっと谷戸沢

第3号

2013年6月

「ヘイケボタル」の幼虫が谷戸沢で初めて見つかりました！

幻想的な光を放ちつつ飛翔するホタルは、里山の夏を代表する昆虫です。谷戸沢川でも清流復活調整池の創設などによる濁水対策などの保護活動により、ゲンジボタルの数が近年増加しています。一方、水田などの止水環境に生息する「ヘイケボタル」は、宅地造成などにもともない生息環境が減少し、絶滅が危惧されています。



ヘイケボタル

本年5月に実施した生息状況調査によると、湿地ビオトープ脇の外周水路などで「ヘイケボタル」の幼虫を初めて確認しました。谷戸沢の自然再生が順調に進行していることを谷戸沢の生きものたちが知らせてくれます。「ヘイケボタル」は、東京都レッドリストで準絶滅危惧種に指定されています。



ゲンジボタル

「ゲンジボタル」は、「ヘイケボタル」よりも大きく、明滅間隔が長いといった特徴があります。

「ゲンジボタル」は、清流環境を好みます。谷戸沢川では、6月上旬から中旬に成虫の飛翔をみることができます。

日の出町の「天然記念物モリアオガエル」

梅雨の頃、湿地ビオトープのウッドデッキに佇むと ♪コオコ コオコと鳴き声が聞こえてきます。

湿地ビオトープや清流復活用貯水池などを利用するモリアオガエルの鳴き声です。やがて、外周水路などの水辺に張り出した枝先に卵のかたまりである「らんかい卵塊」を産み付けます。





それ行け！羽ばたけ！国蝶オオムラサキ！！

しとしとと降る梅雨の季節から一変、からっと暑い夏の季節となりました。今年も谷戸沢処分場でたくさんのオオムラサキが羽化しました。

オオムラサキはかつて全国の里山の雑木林にいた身近な蝶で、紫色の羽が美しく気品があることから日本の国蝶に選ばれました。

しかし、近年は里山の雑木林の減少により、生息数が減少しています。

谷戸沢処分場では、オオムラサキを自然再生の指標として保護に努めています。



羽化したオオムラサキ

今年初めてオオムラサキが羽化したのは、6月13日の雨の日のことでした。雨に濡れてしまっただけで羽が乾かないのでは、と心配しましたが、大きな羽をゆっくりと広げ、羽が乾くと元気に飛び回っていきました。



オオムラサキのオスとメス

オオムラサキのオスとメスはどこが違うのでしょうか。

紫色の羽を持つのはオスのオオムラサキです。メスはオスより一回りからだが大きく、羽の色も暗い紫色のような色をしています。

谷戸沢処分場のオオムラサキは7月下旬頃まで羽化が続きます。

ぜひ、探してみてください！

南の国からやってきた夏の鳥「キビタキ」

谷戸沢処分場の森林に、キビタキの美しい歌声が聞こえてきます。鮮やかな黄色い胸はオスのキビタキの特徴です。

日本で繁殖をして、秋になると南の国へ帰っていきます。

特徴的なのは体の色だけではありません。コジュケイやウグイスの鳴きまねをしたり、空中を飛ぶ虫を捕まえることができたり、とても多才な鳥なのです。





ちょっと谷戸沢

第5号

2013年8月

谷戸沢の森をのぞいてみると「美味しい発見」があるかも！

山菜愛好者の間で、山で美味しいは「オケラ」に「トトキ」と言われている山菜があります。「オケラ」とはキク科の多年草でやや乾いた草地で見られます。「トトキ」は、標準的な和名が「ツリガネニンジン」ですが、各地で山菜として親しまれていることから地域毎に様々な呼び名があるようです。



ツリガネニンジン

ツリガネニンジンとは、キキョウ科の多年草で、夏に淡い紫色の清楚な花を円錐状に付ける山野草です。

写真は、山菜として利用する春先の頃に谷戸沢処分場で撮影したものです。

ツリガネニンジンの特徴は、葉が輪生することや切り口から白色の液体が出ることなどです。

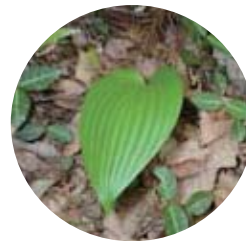


アケビ

森の縁には、アケビが生育しています。甘みのある実は鳥や小動物なども好んで餌にします。サンショウやオオバギボウシなども人気の高い山菜です。



サンショウ



オオバギボウシ

草原でみつけた、ホタルブクロの花

ホタルブクロは、昆虫のホタルが飛ぶ頃に薄紫色の釣鐘型をした花を咲かせるキキョウ科の多年草です。子供の頃、袋状の花にホタルを閉じこめ、淡く明滅する様子を楽しんだ経験のある方もおいでかと思います。花の名前もそんな経験からつけられたようです。



「高鳴き」で存在をアピール！

今回は特大号！全面「モズ」のお話です。皆さんは「モズ」を知っていますか？漢字では「百舌」と書きます。彼らは他の鳥の鳴きまねが得意で、「百の舌を持つ鳥」と言われています。スズメほどの大きさと可愛らしい顔をしています。虫やトカゲの他にもネズミや小鳥などを襲うハンターでもあります。



モズは日本全国に分布する鳥で、最もよく見られる時期は葉の色が変わり始めた秋の季節です。この頃になると「ギョン！ギョン！」や「キチキチキチキチ・・・」と、谷戸沢処分場でも草原ゾーンや水辺ゾーン周辺の木のてっぺんや柵の上で鳴いているモズの姿を見ることができます。



これをモズの「高鳴き」といい、なわばり宣言をしています。オス、メスともに、自分以外のものがなわばり内に侵入すると激しく鳴いてアピールします。よく観察してみると、てっぺんで鳴きながらしっぽをぐるぐると回して、なんとも可愛らしい姿を見ることができます。

Q. 鳥に舌ってあるの？

A. あります！鳥によって形は様々で、その鳥が食べる物によって舌の形が違うようです。



忘れちゃイヤよ「モズのはやにえ」

モズは仕留めた獲物をとがった枝先や、有刺鉄線に突き刺す習性があります。これを「はやにえ」といい、モズの仲間が行います。

はやにえをする理由は色々と説があります。貯蔵のためだったり、なわばり誇示のためだったり、フォーク代わりに突き刺して食べたり・・・

ですが、本当の理由はわかっていません。突き刺した獲物を後で食べようとして忘れ、そのまま放置していることが多いようです。

